



JAPIC NEWS

January
2021
No. 440

1

contents

■ 巻頭言

新型コロナウイルス感染症

一般財団法人 日本医薬情報センター 会長 村上 貴久 2

■ 最近の話題

日本薬学図書館協議会の取り組み

日本薬学図書館協議会 専務理事 平 紀子 4

■ インフォメーション

1月末発売! JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2021年1月版」

図書館からおすすめの1冊 「中华人民共和国药典 2020年版」 6

■ コラム

くすりの散歩道No.141「時代」

(一財)日本医薬情報センター 品質管理担当 矢野 真紀子 7

医薬文献情報・学会演題情報: iyakuSearchから
～新型コロナウイルス関連情報～

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 小野 まり絵 8

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より(抜粋) 10

■ 図書館だより No.366 11

■ 情報提供一覧 11

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

新型コロナウイルス感染症

一般財団法人 日本医薬情報センター
会長

村上 貴久 *Murakami Takahisa*



この原稿を書いている11月に、ファイザー社及びモデルナ社からそれぞれプレスリリースがあり、各社が行っている新型コロナウイルスワクチンの治験について、両社とも、初期結果として予防効果95%を達成し、有害事象はほとんどなかったという発表があった。

社会的不安をかき立てている新型コロナウイルス感染症対策に明るい希望をもたらすものであり、臨床現場で一日も早く使用できるよう、今後の進展を期待したい。

両社のワクチンは、史上初めて実用化されるmRNAワクチンであり、ワクチン開発について大きなブレイクスルーであると思う。

ただし、1万人を対象とした臨床試験を行って有害事象が発見されなかったとしても、発生率の少ない副反応を全部捉えることはできない。特に今回のようなケースであれば、実際に投与される人数は1億人を超えると思われ、医療現場におけるワクチン接種及びその後の患者観察については十分注意しつつ行っていく必要がある。また、両社のワクチンの接種によってどれほどの期間、獲得した免疫が持続するのかについても今後明らかにする必要がある。

40数年前、1975年2-3月号のWORLD HEALTH（世界保健機構（WHO）の機関誌。隔月刊、現在は廃刊）の表紙には、「smallpox /POINT OF NO RETURN」と書いてあった。当時WHOは重大な感染症である天然痘の、地球上からの撲滅を目標として活動しており、「POINT OF NO RETURN」とは、その活動がいよいよ目標達成を目前とする状況になったことを表していた。

天然痘は、比較的大きなDNAウイルスにより引き起こされる感染性の疾患である。天然痘は接触または飛沫により感染し、罹患者は高熱と発疹を発症し、患者の20～50%は死亡する。生存した場合でも顔面など全身に「あばた」が残る。1967

年時点でも、世界31カ国で推定1000万～1500万人の感染者が存在した。

WHOは、南米、アフリカ等、最後まで感染者が発生していた地域において、感染者が発見された場合、その周辺の村に集中的に種痘（天然痘ウイルスワクチンの接種）を行うことにより逐次封じ込めを行い、新規感染者の発生を防ぐという方法で天然痘撲滅プログラムを進めていた。このプログラムは1958年にWHO総会で「世界天然痘根絶決議」が可決されたことにより発足し、先に述べた「POINT OF NO RETURN」を経て、1977年10月、東アフリカのソマリアでの患者を最後とし、ついにその目標を達成した。1980年5月20日には、WHOは天然痘の根絶を宣言している。人類史上初めて、人間の力により感染症の一つを地球上から駆逐したのである。残念ながら、現時点でも駆逐できたのはこの一例にとどまる。

天然痘については、このような根絶プログラムを行う上で、よい条件が整っていた。

まず、不顕性の感染が非常に少ないということである。無症状の感染者が存在すると封じ込めが難しい。次に、人畜共通感染症ではないということである。インフルエンザのように鳥類を経由して感染が広がる場合は、ヒトの集団から駆逐しても再感染が起こりうる。

さらに、接触感染が主体のため、感染拡大の速度が遅いこともよい条件であった。天然痘の残存した地域が、住民の移動が少ない地域であったことも幸いした。最後に、これが最も重要であるが、天然痘には有効性の高い、優秀なワクチンが存在したことが挙げられる。

この時用いられた天然痘ワクチンは、イギリスの医師、ジェンナーが開発した種痘を改良して作られたものである。

話は変わるが、私の子どもの頃は「世界偉人伝」

なる本がたくさん出ていて、その中には大抵ジェンナーの話が載っていた。乳搾りなどの作業により牛痘に感染した農民が天然痘に罹らないことに注目し、18年間にわたって研究を続け、ワクチンを開発し、自分の息子に初めて接種してその有効性・安全性を確かめたという話である。

子どもながらに、たとえ自分の親の^{ひっせい}畢生の研究であっても人体実験の対象にされるのはいやだなと思った記憶がある。日本には、歌舞伎の菅原伝授手習鑑の四段目、寺子屋の段で主君の息子の身代わりで潔く殺されてしまう自分の息子に「よくやった」と涙する両親が出てきて、観客は思わずもらい泣きするという文化があるので、ジェンナーの話も美談ですんでいたのかもしれない。しかし、だいぶ後になって、ジェンナーが最初に接種の対象としたのは自分の使用人の息子（8才）で、接種6週間後には、天然痘の病原体を上乗せ接種して予防効果の確認を行ったということを知って、これはひどいと思った。

現在の医療倫理から見ると許されざる事であるが、しかし、ジェンナーの研究成果がなければ、天然痘撲滅もなかったのは間違いない。

天然痘ワクチンのもたらす免疫の持続時間は長い。今となっては患者が存在しないので検証不可能であるが、100年ほど前の文献では、感染後の死亡率は、幼児期に接種を受けた場合と受けなかった場合で、4才以下の群で0%/45%、5~14才の群で0%/10.5%、15~29才の群で0.7%/13.9%、30~49才の群で3.7%/54.2%、50才以上の群で5.5%/50.0%となっていた。接種後50年近く経過しても免疫が持続していることがわかる。

新型コロナウイルス感染症ワクチンの免疫持続時間については、今後の研究の成果を待たなければならない。そもそも、人類の新型コロナウイルス感染症に関する知識はまだ限られている。昨年来、世界中の研究者が精力的に研究を行っているが、現時点でもわからないことがたくさんある。例えば、日本において死亡患者が少ないのはなぜか。仮説はいろいろ出ているが決定的なものはまだない。また、後遺症があるのかどうか、あるとすればどのようなプロファイルなのかについても、論文はたくさん公表されているが、定説はまだない。また、一度コロナウイルス感染症に罹患した患者は再感染することはないのだろうか。

1980年代、感染症はほぼ克服され、行政上の優先度も少なくなったという雰囲気が社会にも行政にもあった。予防衛生研究所（今の感染症研究所）も、感染症に特化した研究所から疾病全般を対象とした研究所に脱皮しようというプランもあった。保健所も人員が削減され合理化が行われてきた。今回のようなパンデミックが発生すると、公衆衛生の基盤を担うこれらの組織がいかに必要とされているかが

わかる。数十年から百年に一度はパンデミックが起こることを覚悟して、万が一の場合の体制を整備しておくべきであると改めて思う。

日本でも、2021年早々には新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種が開始されるだろう。それに伴い、重症の感染者、死者は減少していくだろう。しかし、ウイルスがなくなるわけではない。天然痘のように根絶はできない。ウイルスと共に暮らすわれわれの日常生活はどのようなものになるのだろうか。

最近の話題

日本薬学図書館協議会の取り組み

日本薬学図書館協議会

専務理事

平 紀子 *Taira Noriko*

日本薬学図書館協議会 (Japan Pharmaceutical Library Association: JPLA) は1955年に創立された、薬学の情報や知識等を得るための活動の推進および相互の連携を図り、利用者の活動を支援することをもって薬学教育・研究の発展に寄与することを事業の目的とする団体です。薬系大学、製薬企業の図書館(室)、個人会員により構成され、組織制度委員会、広報委員会、教育・研究委員会、機関誌「薬学図書館」編集委員会、学術情報コンソーシアム委員会、および日本薬学会年会薬学図書館協議会シンポジウム企画・運営委員会が協議会の活動を支えています。筆者は委員長、理事として教育・研究委員会の活動に長く携わり、2014年からは専務理事としてJPLA全体の事業運営に関わっています。

本稿では、医療系大学図書館での経験を振り返りながらJPLAの活動について紹介させていただきます。

1985年、ロッキード社製の端末機 (DECライター) が当時勤務する大学図書館に導入され、筆者のオンライン情報検索サービスとの関わりが始まりました。DialogのMEDLINE、BIOSIS Previews、EMBASEなどにアクセスして研究者同席のもとで代行検索を行う際、研究者とのレファレンスコミュニケーションが重要なポイントとなることから、緊張しながら対応していたことが思い出されます。その後インターネット検索の出現により、検索主体が図書館員 (サーチャー) から研究者 (エンドユーザー) へと変わり、エンドユーザーが主体となった近年では正確な情報を効率的に、かつ的確に収集できているかを検証する機会が少なくなったことが問題となっています。技術的にユーザーインターフェースは改善されていますが、それ以上に検索機能の高度化が進み、エンドユーザーのスキルが追いつくことが難しくなっています。そこでサポート役となる図書館員の活躍が期待されるはずですが、この必要性が広く認識されていない状況です。

筆者が医療従事者と図書館 (員) の連携を意識したのは、薬学部の医薬品情報学担当教員から依頼を受けた文献情報検索の講義でした。図書館を大学の一施設と捉えがちな1990年代の初め「医薬品情報学に図書館との連携が必要」と語られた教員のその一言が今も記憶に残っています。不慣れでしたが一次資料と二次資料、文献データベースの特徴、キーワードの選択方法、シソーラス用語などの解説を行いました。学部学生でしたが医療従事者と図書館 (員) の関わりについて考える大きなきっかけとなりました。これを機に大学のサテライトキャンパスにて薬学部と薬剤師会が共催する「薬剤師のための文献情報検索セミナー」を開催しました。文献情報の収集方法を支援することを目的に、筆者は医療従事者との関わりの中で文献情報の重要性、正確な情報の収集、入手情報の質の評価、的確な情報を活用するために情報専門職として情報リテラシー力を高めることの意義と重要性を強く認識するようになりました。そして大学院進学の際、医療従事者の情報探索行動を把握するために「医療従事者の情報・学習ニーズと医学図書館員の専門性についての研究」を修士課程の研究テーマとしました。医師、薬剤師、看護職を対象に、医中誌WebやPubMedを検索する際に必要とする知識や技術について行った調査では、医師に比べ薬剤師と看護職は文献を探し出すことを不得意としており、薬剤師は入手する情報のほとんどがMRから提供されるものでした。そこで臨床現場の薬剤師・看護師の情報リテラシー能力向上を目的に、2008年度文部科学省社会人の学び直しニーズ対応推進プログラム「地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム」を開講しました。プログラムは北海道薬剤師会などの協力の下で「文献情報検索に関する知識・技術」、「医療情報の質の評価」、「最新の医療情報を学ぶ」、「患者とのコミュニケー

シヨンスキル向上プログラム」を演習付きで2009年から2年実施しました。受講前後の自己評価では情報収集やコミュニケーションスキルに一定の成果が見られ、また第三者による評価ではプログラムの継続を期待する声が多く聞かれました。このプログラムの実践により図書館員が医療従事者の支援に役立つとの自信が芽生えました。2014年には、特定非営利活動法人日本医学図書館協会の受託事業として、北海道薬剤師会の協力を得て「保険調剤薬局における医中誌Web利用と一般市民への情報提供」の調査を行いました。薬剤師の日常業務と文献情報の関わりを把握することを目的に、臨床現場で医中誌Webによる検索が業務にどのように生かせるのか、その有用性について確認する調査でしたが、結果は検索の前提となるデータベースの知識や技術が不十分であり2004年に行った調査結果と差異がみられず、10年間に薬剤師の情報入手環境に変化がみられない状況でした。

JPLAは一般市民や薬剤師を対象に地域における医療情報の提供をテーマに、各地でのセミナー開催、また薬学会年会「薬学図書館協議会シンポジウム」などで現場の図書館員、研究者などとの情報交換を行ってききましたが、2016年から上記のことを踏まえ、JPLAの中期目標に薬剤師の生涯学習支援事業を位置づけることとしました。以来、「薬剤師のための医療情報検索セミナー」を各地で開催しており、地域の薬剤師会、JPLA加盟館、医学中央雑誌刊行会と連携し、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度研修受講1単位に認定されています。これまで札幌、岡山、熊本、兵庫で開催しており、「日常業務、学会発表、臨床研究に役立つ医療情報検索セミナー」のテーマで「臨床研究のための図書館活用」、「臨床研究のための統計入門編」、「医中誌Webを使い倒そう—こんな情報も入手できます」などの内容で行われています。プログラムは午後からの半日開催、定員は約50名で、受講後に行ったアンケートでは「臨床研究と図書館の活用法が理解出来た」、「仮説検定の理論など基本的なことが理解できた」、「医中誌Webの演習を通して、今後文献調査、論文作成の資料収集の参考にしたい」と好評でした。さらに2018年名古屋で開催された第12回日本在宅薬学会学術大会の教育講演では、筆者が「日本薬学図書館協議会の取り組みと薬剤師との連携による展望」の発表を行い、次いで「医薬品情報の読み解き方、活かし方」、「演習で学ぶ医中誌Webの活

用法」の講演が行なわれました。大会終了後の懇親会で薬剤師の方から「当学会が契約している医中誌Webの使い方がわからなかったがこの機会に文献を調べてみたい」、「今後も医薬品情報を学ぶ機会があると有難い」などの感想をいただき、今後の地域の薬学図書館との連携が期待される一場面がみられました。

研究者や医療従事者が日常的に使用するデータベースは日進月歩です。医中誌Webは2006年よりPubMed連携機能によりシソーラスブラウザで各々の統制語による検索が可能になり、またPubMedはスマートフォン利用率が高くなったことから画面サイズでも見易くなり、2019年よりデフォルト機能により適合率の高い順にソートされるようになりました。検索結果がAIの人工知能機能によりベストマッチされた文献が初期画面に表示されるなど、イメージで検索することができるユーザーフレンドリーなものに進化しています。しかし、IT化が急速に進みエンドユーザーがスマホなどを利用して検索を容易に行えることから、本来必要とする情報を入手できないことしばしばです。患者中心の医療の中で、患者や患者家族の情報入手先は医師から薬剤師、看護職へと広がり、薬剤師には患者およびその家族とのコミュニケーションにおいてエビデンスに基づく正確な薬の情報提供が求められています。

JPLAは今後も加盟館と連携し、皆様が臨床現場において、また臨床研究、学会発表などで必要とする情報収集活動を支援させていただきます。また、長引くコロナ禍の中でもホームページでの情報発信、オンラインセミナー等の開催を通じて、医療従事者や一般市民の情報ニーズに応えるための環境整備を推進していきたいと考えています。

1月末発売!

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2021年1月版」

- ◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。
(医療用は2021年1月、一般用は2020年12月までのJAPIC入手分を収録)
- ◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。
データ出力形式は、タブ区切り／カンマ区切りテキスト(csv)から選択できます。
- ◇薬価、先発品等／後発品情報、規制区分、剤形、添加物、
薬剤識別コード情報なども収録し、さまざまな角度から検索できます。
- ◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。
インターネット環境のない薬剤モニタリング業務などにも最適です。
- ◇インターネット経由で、最新の添付文書PDFの表示も可能です。
(医療用:週1回更新、一般用:月1回更新)

- ◆価格: 単回 13,000円(+税)
年間セット4枚(1月・4月・7月・10月) 23,806円(+税)
- [お問合せ先]
事務局 渉外担当 (TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)



図書館からおすすめの1冊

中华人民共和国药典 2020年版

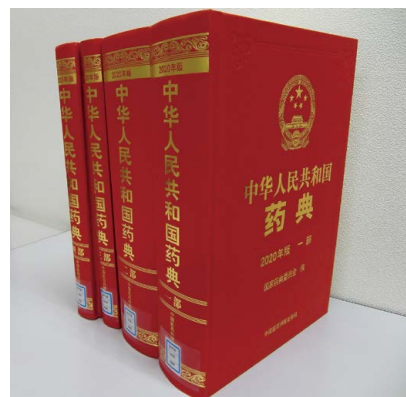
1953年創刊の中華人民共和国の薬局方が刊行されました。本書は薬品の品質、安全、管理に関する基準を定めた中華人民共和国薬品管理法に依拠し、2020年第11版は国家薬品监督管理局および国家卫生健康委員会の公告(2020年第78号)により国家薬典委員会が批准発布し、2020年12月30日から実施です。

以下の4分冊で構成されており、品種5911種、(うち追加319種、修訂3177種、削除10種)を収録しています。各分冊の巻末には中文索引と英文索引を掲載。数年後に英語版が発刊されています。第4版(1985)以降5年ごとに刊行されており、JAPICでは第1版から所蔵しています。

- 一部: 药材和饮片、植物油脂和提取物、成方制剂和单味制剂等 2,711種
- 二部: 化学药品、抗生素、生化药品、放射性药品等 2,712種
- 三部: 生物制品通则、生物制品153種
- 四部: 通则、药用辅料

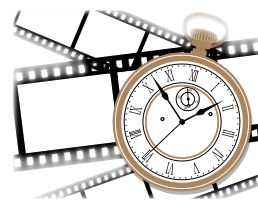
書名	中华人民共和国药典 2020年版		
出版社	中国医药科技出版社		
著编者	国家药典委员会 編		
出版国	中華人民共和国		
ISBN	一部: 978-7-5214-1574-2	二部: 978-7-5214-1598-8	
	三部: 978-7-5214-1575-9	四部: 978-7-5214-1599-5	

[お問合せ先] 図書館部門 (TEL:03-5466-1827、FAX:03-5466-1818)



くすりの散歩道

no.141



時代

(一財)日本医薬情報センター 品質管理担当

矢野 真紀子 *Yano Makiko*

今や時代は令和となり、昭和から平成、令和へと日本人の多くの人々が3つの時代を生きることになります。最近では昭和の時代を知らない若い人達の間で、昭和を懐かしむレトロに人気があると聞きます。時代は確実に新しい世代へと引き継がれていますが、情報の分野での時代の移り変わりも劇的に変化してきました。

昭和の時代、昭和50年代ではまだコンピュータは一般的でなく、このJAPICにもコンピュータは無く、もちろんパソコンも無い時代でした。その時代では医薬品情報をどのように伝えていたのでしょうか。JAPICではパンチカードを使用していました。医薬品のアルファベットをカードのパンチ(穴)で置き換え、カードはパンチされて穴だらけでした。ユーザ側はそのカードからパンチされた情報を専用の機械で読み取り、山のようなパンチカードから特定した医薬品情報を選択していました。パンチカードには文献情報が印刷されており、抄録No.が記載されているので、この抄録No.からパンチされていないカードの抄録No.を見て、ユーザはそのカードに印刷された文献の内容、医薬品情報、書誌情報などを得ていました。

また昭和50年代途中からはオンライン検索も始まり、医薬文献抄録オンライン情報検索システム「JAPICDOC」がスタートしました。今でも覚えています。最初は電話回線を利用して通信施設に繋がっていました。JAPICから電話をかけて電話が繋がればその回線にアクセスでき、検索が開始できたのです。パソコンは無い時代ですので、JAPICには数台の専用端末機がありそれでアクセスしていました。オンラインでは英数字のみの検索で、出力も同様に英数字のみでした。抄録・書誌情報には、かな、漢字が含まれるので出力はされませんでした。それでもパンチカードの時代からみれば画期的な進歩でした。今ではJAPICDOCよりiyakuSearchの方が一般的になりましたが、iyakuSearchが出来たのは2004年で、以前はJAPICDOCの方が主流でした。

また「インベーダーゲーム」と聞いて懐かしく思

われる方もいるでしょう。テレビゲームのはしりでこれが日本中に大ヒットしたのも昭和50年代後半です。喫茶店のテーブルの何台かがインベーダーゲーム機で、小銭をいっぱい持ち、このゲームにハマっていた方も多かったことでしょう。

ゲーム1つをとっても昭和から平成への変化が驚異的なことが分かります。

今では当たり前インターネットも平成の途中までは無い時代でしたから、医薬品の添付文書もそう簡単に見ることが出来ず、JAPIC医薬品集は貴重な存在でした。昭和下での印刷物の校正方法も現在とは異なり、まだ紙と鉛筆の時代ですから二人一組になって、読み合わせで校正を行ったものでした。こんな時代を経て平成に入り、平成5年(1993年)にJAPIC-Qサービスを開始しました。これでやっとJAPICにもコンピュータとこの後にパソコンが揃いました。今考えてみると、平成以降は情報の提供方法が劇的に進化し、時代の流れについていくのに必死でした。

令和に入ってふと立ち止まってみると、今はまったく予期せぬ「COVID-19」に世界中が振り回され、オリンピックも含めた私たちの生活全てが脅かされています。

『♪そんな時代もあったねといつか話せる日が来るわ〜♪』
『あんな時代もあったねときっと笑って話せるわ〜♪』
中島みゆきの「時代」*のように、現在のコロナ禍も数年先には笑って話せるようになっていくことを心から願います。

(出典)

*中島みゆき 作詞・作曲「時代」より引用

医薬文献情報・学会演題情報： iyakuSearchから

～新型コロナウイルス関連情報～

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当

小野 まり絵 Ono Marie

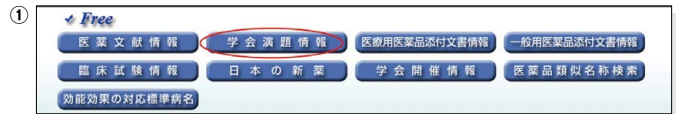
JAPICでは医薬品情報データベース「iyakuSearch」を提供しており、その中には雑誌の文献情報（医薬文献情報）および学会発表された演題・プログラムの情報（学会演題情報）のコンテンツもございます。同コンテンツには、現在全世界で蔓延している新型コロナウイルスに関する情報も含まれております。そこで、iyakuSearchにおける新型コロナウイルス関連の文献の検索方法やその結果をご紹介します。本記事では11月号の医薬文献情報に続き、学会演題情報の検索方法について説明いたします。なお、学会演題情報は月1回更新されており、今回2020年12月の更新分までの情報で検索いたしました。

●実際の検索方法

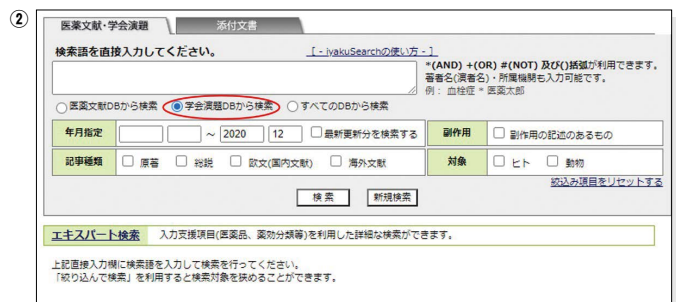
【学会演題情報】

学会演題情報は医薬文献情報と異なり、疾患名の索引がありませんので、標題に含まれる表記を検索することになります。そのため、網羅的に新型コロナウイルスに関するキーワードを設定する必要があります。

① iyakuSearchの「学会演題情報」の画面を開きます。



② 「学会演題DBから検索」が選択されています。学会演題情報の検索操作および検索画面の構成は、医薬文献情報と同様です。フリーワード検索エリアにキーワードを入力後、「検索」を押下し検索します。新型コロナウイルスに関するキーワードとしては、ハイフン(-)や「新型」、「ウイルス」の有無といった表記の揺れを考慮すると、「COVID-19」「COVID19」「SARS-COV-2」「2019-nCoV」「新型コロナウイルス」「新型コロナウイルス」「コロナ」などが考えられます。検索語を設定するにあたり、これらのキーワードを個別に検索することにしました。



③ 検索結果は右の通りです。「2019-nCoV」はヒットがなく、正式名称が決まるまで限定的に使用されていた名称のため、検索語として必要ないと判断しました。

検索語	絞り込み条件	ヒット件数
COVID-19	—	131件
COVID19	—	6件
SARS-COV-2	—	4件
2019-nCoV	—	0件
新型コロナウイルス	—	30件
新型コロナ	—	38件
コロナ	年月指定2019年12月～	44件

※2020年12月時点のヒット件数

新型コロナウイルスを「コロナ」と表現することもあります。また、「コロナ」で検索した場合、新型コロナウイルスとは無関係の文献（ノイズ）が含まれている可能性があります。そのため、検索する際、絞り込み項目の「年月指定」を用いて、世界で初めて報告された2019年12月～と指定しました。「コロナ」に含まれ「新型コロナ」に含まれなかった文献について、検索目的である新型コロナウイルス感染症の情報が含まれているか確認するため、「コロナ # 新型」「絞り込み条件：年月指定2019年12月～」で検索し確認しました。（「#」はNOT検索の演算子です）その結果、6件ヒットしました。演題名に「コロナ禍」「コロナウイルス流行下」という表記がみられ、現時点では本疾患の患者自体の情報は少ないと思われます。ただ、新型コロナウイルス感染症が流行する状況の中での医療機関の対応等の情報が収集できる可能性があります。従いまして、検索漏れを防ぎ、幅広く情報を得るため、新型コロナウイルス感染症の患者に関する情報について検索したい場合は「COVID-19 + COVID19 + 新型コロナ + SARS-COV-2」、新型コロナウイルス感染症が流行する状況の中での医療機関の対応等に関する情報についても検索したい場合は「COVID-19 + COVID19 + コロナ + SARS-COV-2」というように、情報収集の目的に応じて検索語を使い分けることをお勧めいたします。

以下に絞り込み条件およびヒット件数をご提示いたします。

検索語（演算子込み）	絞り込み条件	ヒット件数
COVID-19 + COVID19 + 新型コロナ + SARS-COV-2	—	169件
COVID-19 + COVID19 + コロナ + SARS-COV-2	年月指定2019年12月～	175件

※2020年12月時点のヒット件数

<コロナ禍での学会開催状況や学会抄録集入手状況> ※2020年12月1日現在

新型コロナウイルス感染症は学会開催状況にも大きな影響を及ぼしております。2020年2月までは多少減少があるものの昨年と同様でしたが、緊急事態宣言期間（2020年4月～5月）およびその後2ヵ月（7月まで）は、入手学会数では昨年の1/5程度でした。その後（8月～10月）は、昨年の半数程度となっています。

延期を決めた学会の中には、第18回日本臨床腫瘍学会学術集会（2021年2月に延期）、第32回日本肝胆膵外科学会・学術集会（2021年2月に延期）、第33回日本内視鏡外科学会総会（2021年3月に延期）等の大きな規模の学会もございます。また、第42回日本造血細胞移植学会総会、日本内科学会の各地方会等、開催を中止した中には、抄録登録により誌面発表として成立したものとみなしたり、「発表実績扱いとする」方針を示したりしている学会もございます。当初は、誌上開催への変更が多くみられましたが、現在の全体的な傾向としましては、主にZoomを用いたWeb開催や、現地開催とWeb配信を併用したハイブリッド開催が増加しております。

学会開催に関する最新情報は、iyakuSearchの「学会開催情報」から検索することもできます。是非ご利用ください。



iyakuSearchへはこちらからアクセスできます <https://database.japic.or.jp/>

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より－(抜粋)

2020年11月1日～11月30日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No. 776-779) の記事から抜粋

■米FDA

- Class I Recall : Medtronic, 品質に関する問題のため, Rashkind Balloon Septostomy Cathetersをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/medtronic-recalls-rashkind-balloon-septostomy-catheters-quality-issues>>
- Class I Recall : Stryker Neurovascular, 使用中に破損または分離する可能性があるコアワイヤのため, Trevo XP ProVue Retrieverをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/stryker-neurovascular-recalls-trevo-xp-provue-retriever-due-core-wire-may-break-or-separate-during>>

■カナダHealth Canada

- Summary Safety Review : Brilinta (ticagrelor) -中枢性睡眠時無呼吸の潜在的リスクの評価
<<https://hpr-rps.hres.ca/reg-content/summary-safety-review-detail.php?lang=en&linkID=SSR00248>>
- 妊娠20週を越える非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) の使用および羊水の低下を引き起こす胎児の腎障害のリスク
<<https://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2020/74239a-eng.php>>

■EU・EMA

- Direct healthcare professional communication (DHPC) : Esbriet (pirfenidone) -薬物性肝障害 (DILI) 予防のための重要な安全性更新情報および新規勧告事項
<https://www.ema.europa.eu/documents/dhpc/esbriet-pirfenidone-important-safety-update-new-recommendations-prevent-drug-induced-liver-injury_en.pdf>
- Direct healthcare professional communication (DHPC) : 全身用および吸入用fluoroquinolones (delafloxacin, levofloxacin) -心臓弁逆流/閉鎖不全のリスク
<https://www.ema.europa.eu/documents/dhpc/systemic-inhaled-fluoroquinolones-risk-heart-valve-regurgitation/incompetence_en.pdf>

■英MHRA

- isotretinoinと重篤な副作用との関連の疑い:一般市民と患者の意見を求める
<<https://www.gov.uk/government/news/isotretinoin-and-suspected-link-with-serious-side-effects-public-and-patients-views-sought>>
- bupropion (Zyban) :他のセロトニン作動薬との併用によるセロトニン症候群のリスク
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/bupropion-zyban-risk-of-serotonin-syndrome-with-use-with-other-serotonergic-drugs>>

■独BfArM

- Tecfidera (dimethyl fumarate) のRote-Hand-Brief:軽度のリンパ球減少症に関連する進行性多巣性白質脳症 (PML) 症例に関する最新の勧告
<https://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RHB/2020/rhb-tecfidera.html;jsessionid=5354B8EDA140FC709F4F765F958552B3.1_cid354>

■仏ANSM

- 1型糖尿病患者によるNovoRapid Penfill (insulin aspart; 3 mLカートリッジ) の使用に関する報告における懸念
<<https://www.medsafe.govt.nz/safety/Alerts/NovoRapid.asp>>

■ニュージーランド Medsafe

- Tecentriq (atezolizumab), 特定された重度の皮膚有害反応 (SCAR) のリスク: Direct Healthcare Professional Communication (DHPC)
<<https://www.medsafe.govt.nz/safety/DHCPletters/TecentriqNovember2020.pdf>>

■医薬品医療機器総合機構

- 誤接続防止コネクタの国内導入について
<<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/medical-safety-info/0185.html>>

■厚生労働省

- ゲル充填人工乳房及び皮膚拡張器植込み患者等に対する情報提供について
<<https://www.mhbw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T20110210010.pdf>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局 渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著者	出版者	出版年月
2020年版MR白書 MRの実態および教育研修の変動調査	公益財団法人MR認定センター	公益財団法人 MR認定センター	2020年10月
抗菌薬適正使用生涯教育テキスト 第3版	日本化学療法学会抗菌化学療法 認定医認定制度審議委員会 編	公益社団法人 日本化学療法学会	2020年10月
中华人民共和国药典 2020年版	国家药典委员会 編	中国医药科技出版社	2020年5月
腸内フローラと健康長寿 腸内フローラシンポジウム28	神谷 茂 編	公益財団法人ヤクルト・ バイオサイエンス 研究財団	2020年10月
日本のヨウ素の歴史	藤野 隆	ヨウ素学会	2020年9月

情報提供一覧

2020年12月1日～12月31日提供

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合はJAPIC 事務局 渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせください。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	https://database.japic.or.jp/
1. 「一般用医薬品 (経済課コード)」 2020年11月分 (HP定期更新情報掲載)	12月 1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 「JAPIC NEWS」 No.440 2021年1月号	12月28日	2. 学会演題情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (郵送、電子メール等で提供)		3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」	毎 週	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	5. 臨床試験情報	随 時
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	月 1 回	6. 日本の新薬	随 時
4. 「JAPIC-Q 医療機器情報サービス」	月 2 回	7. 学会開催情報	月 2 回
5. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する 措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」	毎 日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
6. 「JAPIC Weekly News」	毎 週	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」	毎 週	〈iyakuSearchPlus〉	https://database.japic.or.jp/
		1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
		2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日

外部機関から提供しているJAPICデータベース

〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 <https://jdream3.com/>

〈株式会社日本経済新聞社から提供〉 <https://telecom.nikkei.co.jp/>

平成10年1月～令和元年12月承認分までの審査報告書の全文を収録!

日本の新薬

— 新薬承認審査報告書集 —

全104巻

◆最新の7巻を刊行。全104巻に!!

新薬79品目を追加し、全巻では1,331品目を収録。

◆新薬開発、薬事・市販後対応、医学・薬学教育に!!

本書は、新薬の承認審査における厚生労働省の「審議結果報告書」および(独)医薬品医療機器総合機構等の「審査報告書」をすべて収録しております。

◆お得で便利なセットでの購入をお勧めします!!

各巻 **22,000円** (+税)

追加分7巻セット **77,000円** (+税)

※上記価格とは別に、JAPIC 維持会員様向けの割引価格をご用意しております。



一般財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC) 編集・発行
丸善出版 株式会社 発売

JAPIC <https://www.japic.or.jp/>

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

るりはながさ

「瑠璃花笠」と書く。学名; *Eranthemum pulchellum* Andrews. 英名; blue sage. きつねのまご科エランテマム属。非耐寒性常緑小低木。インド、ヒマラヤ、中国雲南地方等原産。日本には明治時代に渡来。温室にて栽培し、花期は1月~4月、葉腋から穂状花序を伸ばし五弁の青紫色の小さな花を付ける。イリドイド配糖体 *eranthemoside* 等含有。(hy)



JAPICホームページより
<https://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。